



# 地上の光を

# 求めて

# 宮武健仁写真展

文学企画展 第12回とくしま芸術文化賞受賞記念

2023年

10月3日(火)～13日(金)

〔会場〕1階 ギャラリー

〔休館日〕10月10日(火)

〔開館時間〕9:30～17:00

〔観覧料〕無料

〔主催〕徳島県立文学書道館

言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1

TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540

<http://www.bungakushodo.jp>

[kotonoha@bungakushodo.jp](mailto:kotonoha@bungakushodo.jp)





ギャラリートーク

10/7(土)、8(日)、9(月・祝)

14:00～15:00

申込不要



撮影 秋月悠(徳島新聞社)

1966年、大阪生まれ。4歳から徳島で育つ。88年、東京工芸大学工学部写真工学科を卒業。在学中、風景写真家・白川義員の作品に感銘を受け、大判カメラでの撮影を始める。卒業と同時に写真処理機器メーカーのノリッツ鋼機株式会社に入社し、広告用スタジオで広告写真・商業写真の撮影や新製品の開発に携わりつつ、紀伊半島の自然を撮った。

95年、徳島県松茂町に「宮武写真工房」を設立。吉野川、四万十川、瀬戸内海など、美しく多様に変化する水に魅せられ、継続的に撮影を行う。2009年、桜島の噴火に間近で遭遇し、以来、赤く輝く「火」の表現にも取り組むことになる。また、師の芳賀日出男のアドバイスのにより始めたデジタル動画による撮影と、スチール写真による撮影の両立により国内外から注目される。

近年は、水とマグマの作り出す特徴的な地球の光景や、水辺の蛍、夜光虫など、闇夜に輝くさまざまな存在を求めて日本各地を旅する。

13年、日経ナショナルジオグラフィック写真賞グランプリ受賞。20年、第12回とくしま芸術文化賞(徳島県文化振興財団主催)受賞。ニューヨークや国内各地で個展を開催。各種写真展審査員。近著に、写真絵本『桜島の赤い火』(福音館書店)、写真集『桜島―生きている大地』(バイインターナショナル)、『Shine―命の輝き』(青苔社)など。



交通アクセス (JR徳島駅から)

- ◆ 徒歩 約15分  
JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- ◆ バス  
[徳島市営バス] 7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。  
[徳島バス] 15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。
- ◆ タクシー・自動車 約5分  
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。
- ◆ 駐車場  
当館北側にあります(43台、大型バス2台)。

